

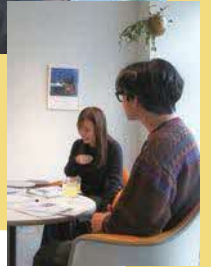
学生座談会で見てきた若者世代のホンネ



# 私たち、 こんな会社で 働きたい!



(左から)日本福祉大学1年生 / 太田黒さん、熊本大学5年生 / 西浦さん、熊本大学4年生 / 飯野さん



今回は3名の大学生に参加していただき、「熊本市子育て支援優良企業」の事例集を見ながらそれぞれの価値観についてお話を聞きました。

## 事例集を見てどう思う？

**西浦さん:** 正直なところ、男性の育児休業はまだ一部の大企業で働いている人たちだけなのかなというイメージを持っていました。でも、事例集に掲載されている『新興測量設計』さんを始め、中小企業でも男性の育休取得率100%を達成している企業がいくつもあると知り驚きました。

建設や測量といった現場業務が多い仕事でも、当たり前にはパパが育休を取る文化が浸透し始めているんですね。こうした実績が可視化されていると、「自分も取っていいんだ」と安心できそうです。

**飯野さん:** 私は「時短勤務」を取り入れている企業が結構多いんだな、という印象を受けました。実は私はこどもの頃、保育園では一番最後までお迎えを待って残っているタイプだったんです。保育園ももちろん楽しかったのですが、遅くまで残っているのは寂しいですし、やっぱり早く家に帰れる方が嬉しいですね。

事例集の中で、時短制度を使ってお子さんの送り迎えに行っている様子を見て、「こういう制度を使ったら親の負担軽減だけでなく、こどもの心にもすごくいい影響があるんだろうな」と感じました。

**太田黒さん:** 事例集を見ていて気付いたんですけど、この中で紹介されている方たちって、お子さんが二人、三人というしゃる家庭が多いですね。少子化には色々な理由があると思いますが、会社の子育て支援が整っていることが「もう一人」を考える後押しになっているのかなと思います。特に、上のお子さんがまだ小さい中での出産や育児は本当に大変なはず。男性が育休を取れるという確信があれば、安心なんじゃないかなと思います。

## 将来どのような職場環境で働きたいと思っている？

**飯野さん:** 私は自分の仕事のキャリアを大切にしたいという気持ちが強いので、育児をしながらでもキャリアが完全に止まってしまう方法はないかな、とよく考えてしまいます。だからこそ、休む期間があってもスムーズに復職できる体制はとても大切ですね。それに加えて、こどもだけでなく「親」へのサポートももっとあるといいなと思います。出産や育児を素敵なライフイベントだと感じられれば、より前向きに仕事と両立できるはず。いい意味で「依存先」というか、頼れる場所はたくさんあった方がいいと思っていて、会社もそのひとつになってくれるといいんじゃないかなって。

**西浦さん:** 「時間の柔軟性」がある環境だといいなと個人的には思います。毎日決まった8時間を会社で過ごすのではなく、状況に応じて働く時間を調整できるような。例えば、就業時間を一日じゃなくて週で消化できるようなフレキシブルな働き方が実現すれば、出産や育児のことだけでなく、体調や状況に合わせて働くことができますよね。そうやって自分で調整できると、仕事の質も上がっていくのではないのでしょうか。今はオンライン環境も整ってきたので、遠隔でできることも増えていますよね。

**太田黒さん:** 制度を「使う側の気持ち」に寄り添ってくれる職場がいいなと思います。私は4人兄妹の長女なのですが、小さい子って頻繁に熱を出しますよね。共働きの両親は、急に保育園から連絡がきたときなど、いつも大変そうで……。できるだけ早くお迎えに行けるよう周囲が対応してくれると、親もこどもも安心できると思います。「申し訳ない」ではなく、みんなが「お互い様」と支え合える空気感がある環境が理想ですね。

